

新しい「防災気象情報」を確認しよう

近年、集中豪雨などの大雨の増加や台風の巨大化など、自然災害のリスクが高まっています。私たちの生活はすでに気候変動の影響を受け始めていますので、防災と気候変動のリスクを小さくするためのエコ活動は切り離せないテーマとなっています。気象庁は2026年5月に防災気象情報を見直し、新たな運用を開始しました。新しい防災気象情報では「河川氾濫」「大雨」「土砂災害」「高潮」の4つの災害について、防災気象情報と警戒レベル(1～5)が対応づけられ、危険度がより分かりやすく示されるようになっていきます。気候の変化を理解し、災害に備えることは持続可能な暮らしにもつながります。新しい防災気象情報について確認しておきましょう。



「レベル」で判断する防災気象情報

新しい防災気象情報では、災害の危険度が高い順に

レベル5＝命を守る行動を

レベル4＝全員避難

レベル3＝高齢者等は避難

レベル2＝避難行動の確認

レベル1＝災害の心構えを高めるとなっています。

これは、自治体が発表する避難情報と連動しており、例えば大雨警報の場合、「レベル3大雨警報」のように発表されるため、危険の度合いが直感的に理解しやすくなります。

レベル3では高齢者など避難に時間がかかる人が避難を始め、レベル4では危険な場所にいる人は全員避難します。大切なのは、レベル5を待たずにレベル3やレベル4の段階で早めに行動することです。

災害から命を守るためには、「正しい情報」と「早めの行動」が欠かせません。そのためにも日頃から自分自身の避難行動を想定しておくことも、いざという時の安全につながります。

高

危険度

低

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル 5 命の危険 直ちに安全確保！	既に災害が発生・切迫している状況です。 命が危険ですので、直ちに身の安全を確保しましょう。	緊急安全確保 (市町村が発令) ※市町村が災害の状況を実際に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~~		
警戒レベル <b>4</b> 危険な場所から 全員避難	災害が発生する危険が高まっています。 <b>速やかに危険な場所から避難先へ避難</b> しましょう。	避難指示 (市町村が発令)  ※避難指示は、令和3年の災対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令されます。
警戒レベル <b>3</b> 危険な場所から 高齢者等は 避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 (市町村が発令)
警戒レベル <b>2</b>	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの <b>避難行動を確認</b> しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
警戒レベル <b>1</b>	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)

出典：政府広報オンライン「警戒レベル4」で危険な場所から全員避難！5段階の「警戒レベル」を確認しましょう」